

最近、英国の大学を回って、英国の欧州連合(EU)からの離脱が大学の教育・経営にどのように影響するか聞いた。マイナス面は予想されたのだが、想像以上に悲観的なのに驚かされた。英国はほとんどが国立大学で、外国人留学生という時、EU加盟国からの留学生は含まれない。学費も英国の学生と同じ年間約9000ポンド(現レートで約114万円)に抑えている。英国の大学はEUの教育体制と一体化し、EUか



西川 恵

kin-gon

金言

ら助成を受けているからだ。しかしEU離脱後は、EUの学生もアジア、アフリカなどと同じ外国人留学生になり、学費は高騰する。

ロンドンの名門大学、キングス・カレッジ・ロンドン(KCL)とユニバーシティ・カレッジ・ロンドン(UCL)の担当者は、異口同音に「離脱は歓迎できない」と述べた。一つはEUからの留学生の減少が予想されること。学費高騰も一因となるが、EUの学生は卒業後、これまでは英国内で自由に就職でき

英大学の嘆き

た。しかしEU離脱後は労働ビザが必要となる移民労働の扱いになり、英国に留学する魅力が大きく減じる。

EUから入っていた研究助成など資金面での支援がなくなるのも痛手だ。とくにEUと関係の深いUCLの場合、年間予算6億3000万ポンド(約801億円)のうち4分の1がEUからの助成。広報担当副部長のベンジャミン・ムニエ氏は「離脱は大きな不確定要素」と語る。

離脱はEU以外の留学生にも影を落としている。英国中

部マンチェスター大学は3万8000人の学生のうち1万1000人が非EUの留学生。学生部長ティム・ウエストレーク氏は「留学生を移民と見て、『役に立たない移民が入ってきている』との考えが出てきている。これが日本、中国、マレーシアなどの留学生が来づらくなっている空気を作っている」と認める。同大学もEUからの研究助成は25%を占める。

経済的メリット、頭脳の獲得、大学の地位向上を念頭に、外国人留学生の争奪が世界的

に激しくなっている。英国の次に訪れたオランダのデルフト工科大学の国際担当部長エルク・バン・ノールト氏は「(EU離脱で)英政府は大学にテコ入れしなければならぬが、経済状況から難しい。英国の大学教育は崩壊するかもしれないが、我々にチャンスだ」と冗談めかして語った。

英国は英語と、教育ノウハウの蓄積で外国人留学生を引きつけてきた。しかし逆風の中でもはやあぐらをかいてはおれない。(客員編集委員)